



学校だより

令和5年度 9月号

横浜市立庄戸小学校

笑顔がかがやく 子どもが主役の学校

～感動いっぱい 夢いっぱい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～
庄戸小ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shodo>



9月

たくさんの思い出をつくっていこう

校長 山口 洋幸

6・7月に4・5・6年生は宿泊体験学習・修学旅行に行ってきました。

私はそれらの帰校式でいつも子ども達に同じ宿題を出しています。それは、「家に帰ったら、楽しかったことを家の人に話してくださいね。それが宿題です。」というものです。これは、送り出す保護者の皆様にとっては、短い一泊二日ではあっても、お子様がいくつになっても心配は尽きないこと、また、当日に向けて様々な準備をしていただいていることを想うと、帰宅したお子様に最初にかける言葉は、「どうだった、楽しかった？」ではないかなと考えるからです。

今年は4年生の児童からは、「どうしよう、楽しかったことがありすぎて、話すのが大変かもしれない。」と、5年生の児童からは、「低温冷ぞう庫が寒かった話をするんだ。」と話しかけられ、私はとてもうれしい気持ちになりました。



私が教員になろうと思った大きな理由の一つに、小学生の時にしたキャンプファイヤーが楽しかったことが挙げられます。当時、仲間と円になって踊ったり歌ったりゲームをしたりして、こんなに楽しいことがあるのかとよい思い出になりました。子ども達にぜひあの楽しさを味わわせたいと、教員になる時にはキャンプ協会の指導者資格を取りに行った程でした。仲間と宿を共にすることは、布団を協力して敷いたり、多くの人数でトランプをしたり、部屋を掃除したり、食事をしたり、お風呂に入ったり、森を探検したりと、たった一泊であっても何事にも代えがたい経験をすることができると思います。

さて、6年生のある児童は修学旅行についての振り返りの中で、「修学旅行での経験を生かして次は運動会に向けてがんばりたい。」という思いをもっていました。宿泊を伴う行事と同じように、友達のよさを認め合いながら自分の力を発揮したり、協力して活動したりして、よい思い出をたくさんつくって欲しいと思います。

保護者の皆様には、引き続き秋からの各学年の行事や教育活動でご理解ご協力をしていただくことがありますが、よろしく願い申し上げます。